

# 2018年12月期 決算説明会

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2019年2月21日

- I 2018年度 決算実績と  
2019年度 業績予想**
- II 今後の成長戦略**
- III (参考) 事業概要**

# 会社概要



商号	株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
設立	1977年11月2日
本社所在地	佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
代表者	代表取締役会長兼社長 唐川文成
従業員数	165名（2018年12月31日現在）
事業内容	診断薬事業…病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売 OTC事業…OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
主要取引先	東邦薬品株式会社、株式会社メディセオ、アルフレッサ株式会社 株式会社バイタルネット、株式会社スズケン、富士フイルム株式会社 他
営業拠点	本社、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、その他各地駐在
開発拠点	佐賀県鳥栖市 本社工場

※OTC（Over The Counter）： 医師の処方箋がなくても購入できる医薬品。  
薬局、薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称

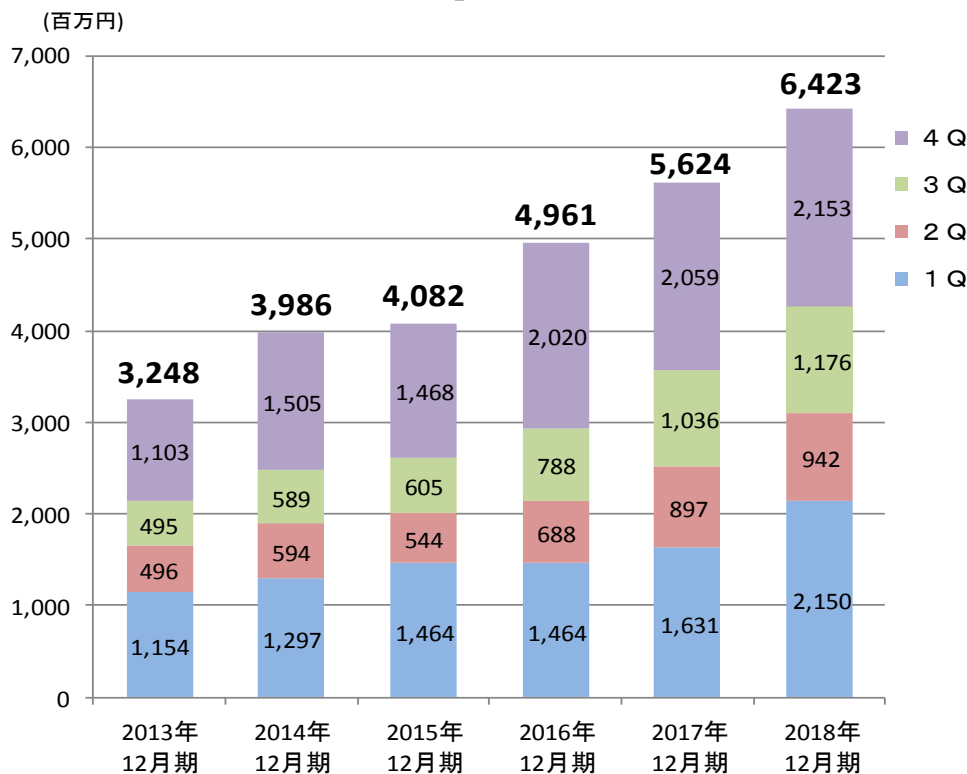
# I 2018年度 決算実績と 2019年度 業績予想

# 2018年12月期 決算実績 業績の推移（売上高、経常利益・当期純利益）

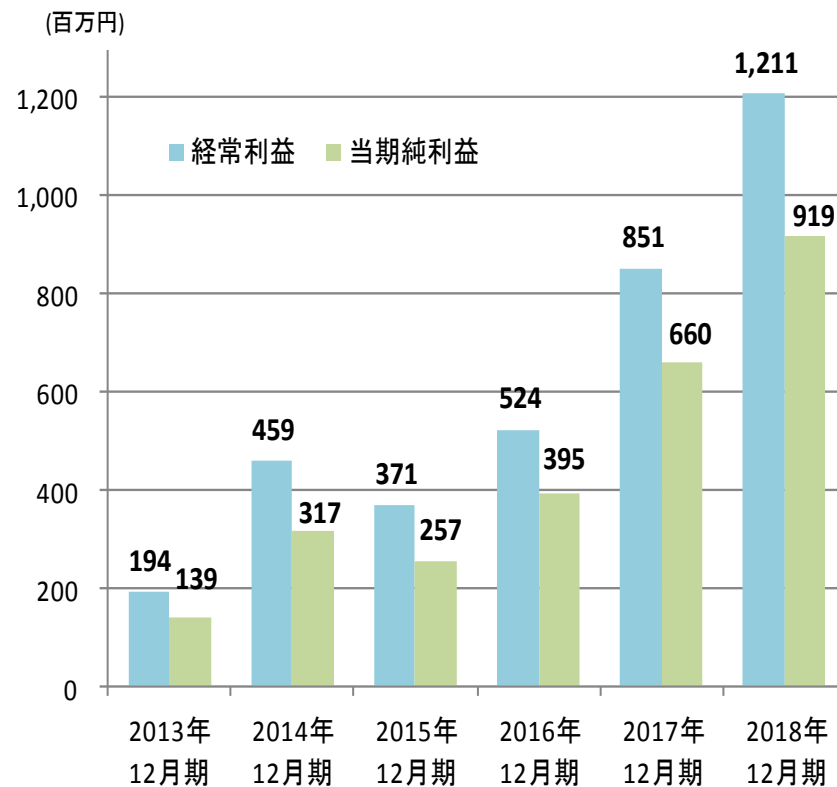


- 過去最高売上高・過去最高益を連続更新中
- 売上高の約50%はインフルエンザ検査薬
- 売上高及び利益は、第1・第4四半期（インフルエンザ流行期）に集中

## 売上高



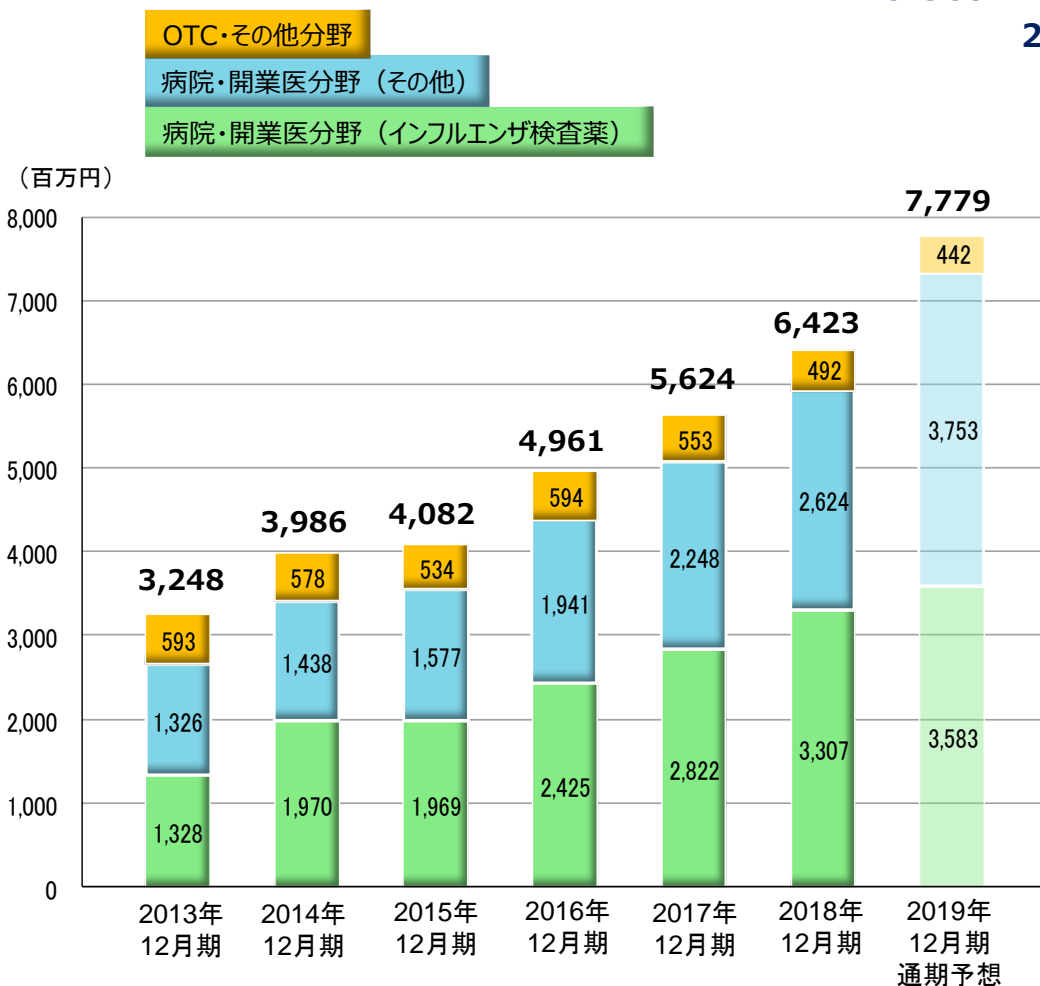
## 経常利益・当期純利益



# 2018年12月期 決算実績 市場分野別の売上高推移



## 市場分野別の売上高



▶ 病院・開業医分野のインフルエンザ検査薬、その他感染症項目の検査薬も着実に増収基調を継続

2018年12月期 実績 (6,423百万円 前期比14.2%増)

■ 病院・開業医分野 (5,931百万円 17.0%増)

- ◇ **インフルエンザ検査薬 (3,307百万円 17.2%増)**
  - ・2017/2018シーズンは大きな流行となり、推定患者数が過去最多数を更新
  - ・イムリーダーの累計販売台数に比例して、試薬 (Auto Flu A,B)の出荷数が伸長
- ◇ **その他 (2,624百万円 16.7%増)**
  - ・その他感染症項目の検査薬は、製品ラインナップ数の充実という強みにより、各項目が増加基調を継続中  
StrepA、RSV/ヒトメタニューモ、ノロウイルス、ロタ/アデノ、アデノ検査薬など
  - ・新製品(2017発売)も、売上高増加に大きく貢献  
眼科用アデノ、肺炎球菌/レジオネラ検査薬など
- **OTC・その他分野 (492百万円 11.0%減)**
  - ・妊娠検査薬は、他社との価格競争のなか横ばいを維持
  - ・排卵日検査薬は、スイッチOTCの影響により、薬局向け自社ブランド製品は減少傾向
  - ・武田CH株式会社向け製品、自社ブランド製品、プライベートブランド製品が市場で競合状態

# 2018年12月期 決算実績 損益計算書 P/L (前期比、予想比)



- 売上高 6,423百万円 (前期比 14.2%増、予想比 △1.4%減)
- 経常利益 1,211百万円 (前期比 42.4%増、予想比 8.6%増)

- ✓ 前期比：増収効果により、人件費や研究開発費などの販管費の増加をカバーし、大幅な増益
- ✓ 予想比：売上高は僅かに未達（1.4%減）も、主に売上構成変化の影響により、売上総利益が増加し、上振れ着地（営業利益9.6%増）

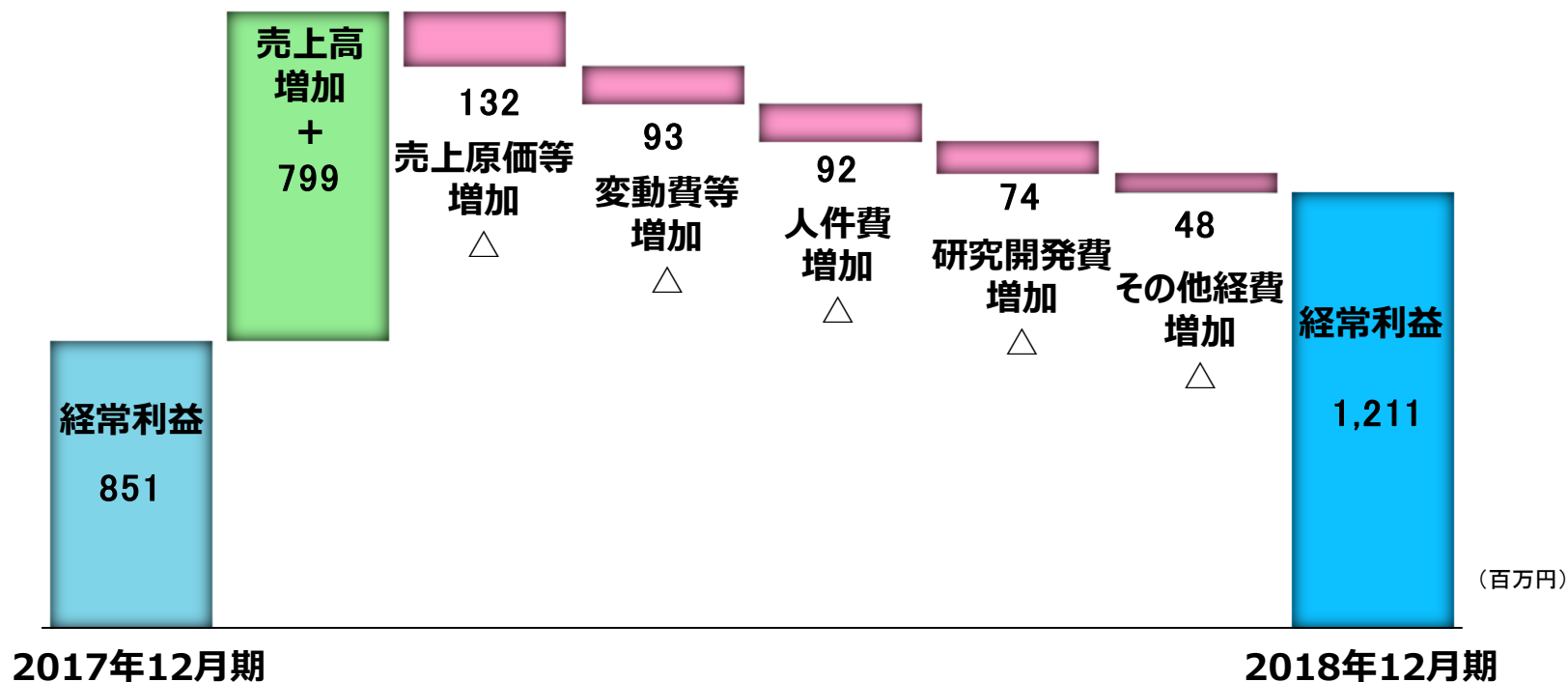
(百万円)

	2017年12月期		2018年12月期							
	前期実績		8/10修正予想		当期実績		前期比		予想比	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	5,624	100.0	6,517	100.0	<b>6,423</b>	100.0	799	<b>14.2</b>	△93	△ <b>1.4</b>
差引売上総利益	3,659	65.1	4,267	65.5	4,326	67.4	667	18.2	59	1.4
販売費及び一般管理費	2,808	49.9	3,153	48.4	3,105	48.3	297	10.6	△47	△1.5
営業利益	850	15.1	1,113	17.1	<b>1,220</b>	19.0	370	<b>43.5</b>	107	<b>9.6</b>
経常利益	851	15.1	1,116	17.1	<b>1,211</b>	18.9	360	<b>42.4</b>	95	<b>8.6</b>
当期純利益	660	11.7	853	13.1	<b>919</b>	14.3	259	<b>39.3</b>	65	<b>7.7</b>

# 2018年12月期 決算実績 経常利益 増減要因



- 売上高799百万円の増加に加え、売上構成の変化により粗利率が向上し、売上総利益が667百万円増加
- この大幅な売上総利益の増加が、人件費、研究開発費、変動費等の増加を吸収し、2018年12月期の経常利益は、360百万円増加し、1,211百万円



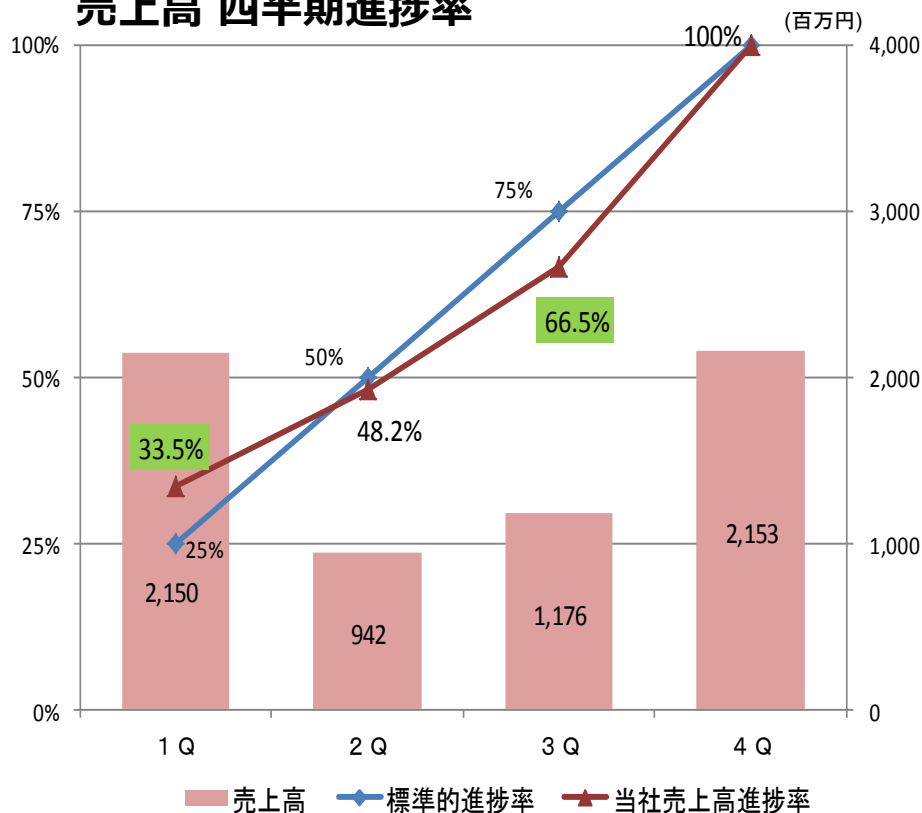


# 2018年12月期 決算実績 四半期進捗率の推移 (売上高・営業利益)

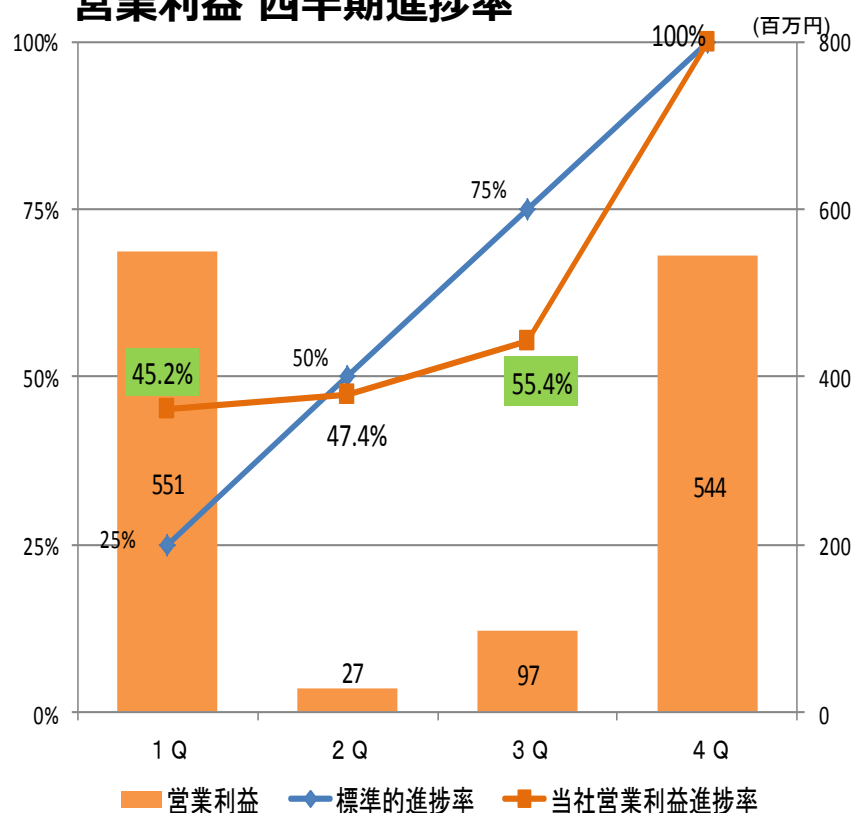


- 2018年12月期 四半期進捗率の推移 (通期実績を100%とした場合)
- 当社の特徴：『インフルエンザの季節変動により、売上高が1Qと4Qに集中する』  
⇒ 四半期進捗率の推移は、季節変動のない標準的進捗率から大きく乖離する

## 売上高 四半期進捗率



## 営業利益 四半期進捗率



# 2018年12月期 決算実績 貸借対照表 B/S (資産)



(百万円)

	2017年 12月期	2018年 12月期	増減額	主な増減内容
流動資産	3,226	3,760	533	
現金及び預金	265	235	△30	
売掛金・電子記録債権	2,104	2,229	125	・第4四半期の売上高の増加
たな卸資産	785	1,151	365	・主にインフルエンザ検査薬の増加
その他流動資産	71	144	72	
固定資産	1,151	1,822	671	
有形固定資産	939	1,602	662	・新工場用地 282 ・新工場建設着手金等 297
無形固定資産	8	15	6	
投資その他の資産	203	205	2	
資産合計	4,377	5,582	1,205	

# 2018年12月期 決算実績 貸借対照表 B/S (負債・純資産)



(百万円)

	2017年 12月期	2018年 12月期	増減額	主な増減内容
<b>流動負債</b>	1,162	1,703	540	
買掛金・電子記録債務	458	568	109	・主に買掛金の増加
短期借入金	81	377	296	・短期借入金の増加 300
その他流動負債	622	757	134	・主に未払法人税等の増加
<b>固定負債</b>	777	723	△54	
長期借入金	102	25	△77	
その他固定負債	674	698	23	
<b>負債合計</b>	1,940	2,427	486	
<b>株主資本</b>	2,436	3,155	718	
資本金	464	464	—	
資本剰余金	274	274	—	
利益剰余金	1,698	2,417	719	・2017年12月期配当金 △200 ・当期純利益 919
<b>純資産合計</b>	2,437	3,155	718	
<b>負債純資産合計</b>	4,377	5,582	1,205	

# 2018年12月期 決算実績 キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	2017年 12月期	2018年 12月期	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	877	670	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税引前当期純利益 (+1,211)</li> <li>・減価償却費 (+96)</li> <li>・売上債権の増加 (△125)</li> <li>・たな卸資産の増加 (△365)</li> <li>・仕入債務の増加 (+109)</li> <li>・法人税等の支払 (△257)</li> </ul>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△107	△717	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得 (△708) (新工場用地、建設着手金等の支払)</li> </ul>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△580	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期借入金の純増 (+300)</li> <li>・長期借入金の返済 (△81)</li> <li>・配当金の支払 (△199)</li> </ul>
現金及び現金同等物の増減額	190	△30	
現金及び現金同等物の期首残高	75	265	
現金及び現金同等物の期末残高	265	235	

# 2019年12月期 業績予想 市場分野別 売上高予想



## ◆病院・開業医分野 — 前期比 23.7% 増 7,337百万円

- インフルエンザ検査薬は、機器の累計販売台数の堅調な伸びに伴い、試薬の売上高増加
- その他の感染症項目のアデノウイルス、Strep A、ノロウイルス等は、増収基調を継続、RSV/ヒトメタニューモ、肺炎球菌/レジオネラ、眼科用アデノの新製品群は、シェア拡大中
- 2018年10月発売の遺伝子解析装置『Smart Gene』、マイコプラズマ核酸キット『スマートジーン Myco』は、病院・診療所への普及に伴い、売上高の伸長を予想

## ◆OTC・その他分野 — 前期比 10.1% 減 442百万円

- 武田CH向け製品、自社ブランド製品及びPB製品は、競合状況が継続する予測のもと、減収を予想するも、販促企画や差別化等により売上高の維持に注力

(百万円)

	2018年12月期		2019年12月期			
	当期実績		次期通期予想			
	金額	構成比%	金額	構成比%	増減額	増減率%
病院・開業医分野	5,931	92.3	<b>7,337</b>	94.3	1,406	<b>23.7</b>
(インフルエンザ検査薬)	3,307	51.5	3,583	46.1	276	8.4
(その他)	2,624	40.8	3,753	48.2	1,129	43.1
OTC・その他分野	492	7.7	<b>442</b>	5.7	△49	△ <b>10.1</b>
合計	6,423	100.0	<b>7,779</b>	100.0	1,356	<b>21.1</b>

# 2019年12月期 業績予想 通期業績予想（損益計算書 P/L）



## ➤ 2019年12月期も増収・増益（過去最高）を予想

■売上高 7,779百万円（前期比 21.1%増） ■営業利益 1,422百万円（前期比 16.6%増）

■経常利益 1,408百万円（前期比 16.2%増） ■当期純利益 1,035百万円（前期比 12.7%増）

- さらなる研究開発投資、人員増強による人件費の増加
- 久留米工場・遺伝子研究所の稼働に伴う一時費用及び減価償却費等の発生
- このため、営業利益は、前期比16.6%増と鈍化（前期は43.5%増）を予想するも、過去最高益を更新見込み

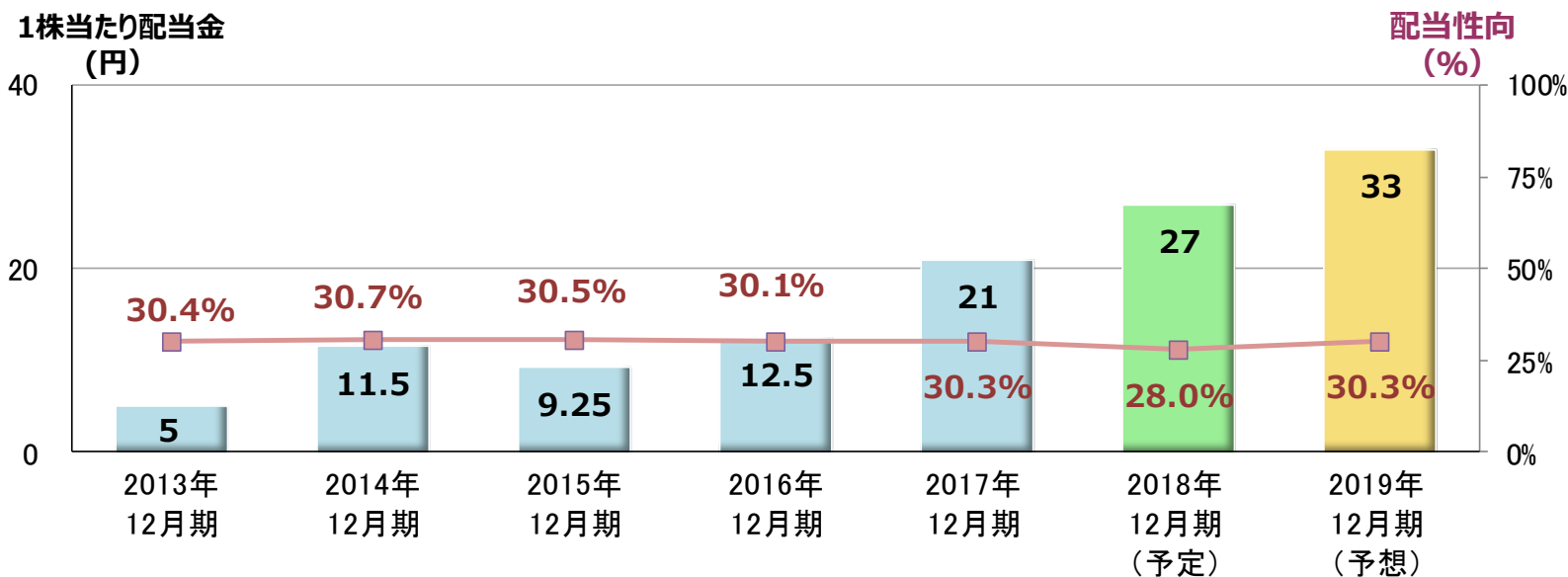
（百万円）

	2018年12月期		2019年12月期			
	当期実績		次期通期予想			
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	前期比 %
売上高	6,423	100.0	7,779	100.0	1,356	21.1
売上総利益	4,326	67.4	5,078	65.3	751	17.4
販売費及び一般管理費	3,105	48.3	3,655	47.0	549	17.7
営業利益	1,220	19.0	1,422	18.3	202	16.6
経常利益	1,211	18.9	1,408	18.1	196	16.2
当期純利益	919	14.3	1,035	13.3	116	12.7

## 配当方針

『業績に応じた配当を行うことを基本としつつ、配当性向、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案して決定』

- この方針を踏まえ、**配当性向30%**を目標
- 2018年12月期の配当（予定）は、1株当たり27円
- 2019年12月期の配当予想は、1株当たり33円（配当性向30.3%）



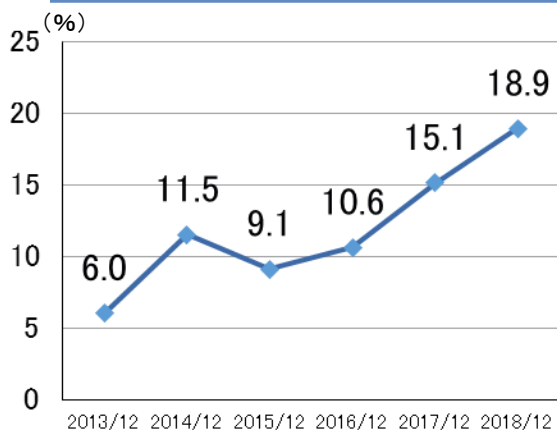
- 1株当たりの配当金は、2015年10月の株式5分割、2017年7月及び2018年6月の株式2分割に伴う影響を加味しております。

# 財務比率等の推移

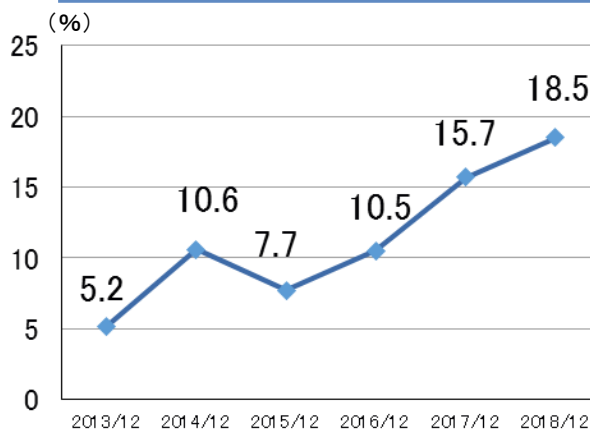


- 利益率は売上面、資産面からも増加基調

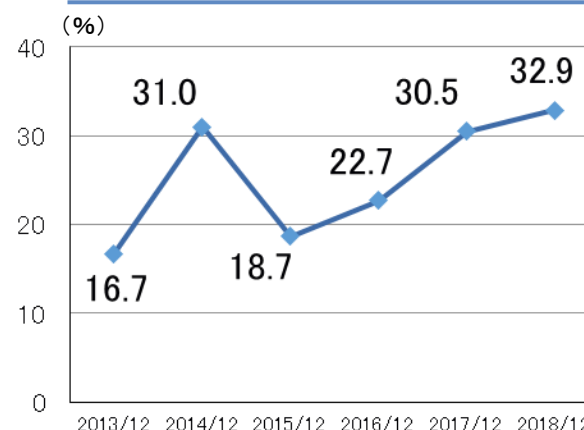
## 売上高経常利益率



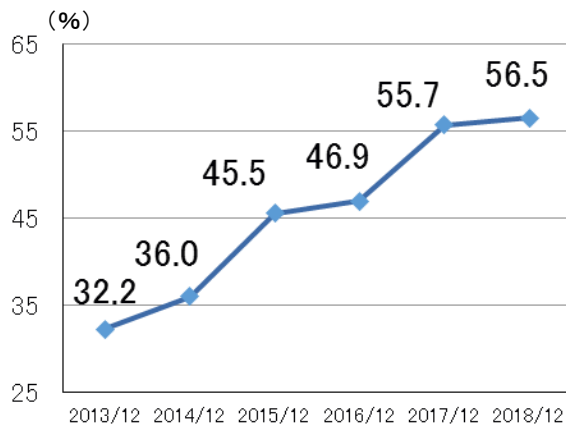
## 総資産利益率 (ROA)



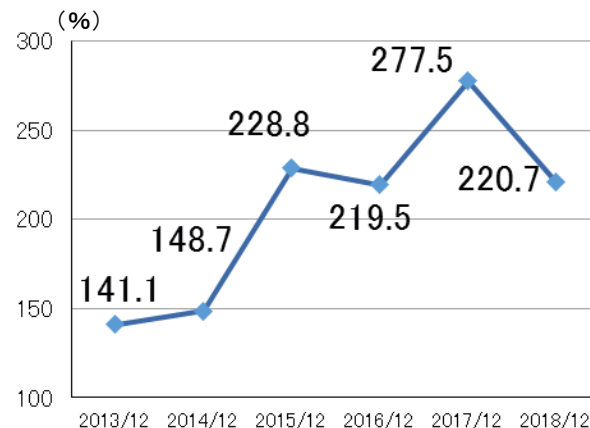
## 自己資本利益率 (ROE)



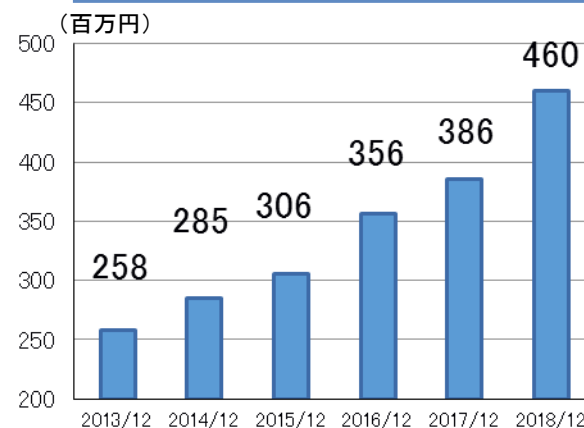
## 自己資本比率



## 流動比率



## 研究開発費推移





## Ⅱ 今後の成長戦略

オールインワン（遺伝子抽出・増幅・検出） 試薬による遺伝子POCT検査を実現

遺伝子検査システム

# Smart Gene<sup>®</sup>

遺伝子POCT検査キット

『スマートジーン<sup>®</sup> Myco』

2018年10月発売開始



## ▶ 遺伝子POCT検査機器・試薬システムへの期待

### ● 感染症の遺伝子検査

クリニック、市中病院→外注  
(検査センターでの検体検査)

検査結果を得るのに数日を要する

基幹病院→検査室にて複数検体処理

高価な装置の導入、ランニングコスト

### ● 薬剤耐性鑑別検査

病院、検査センターの微生物検査室にて  
増菌培養と同定及び薬剤感受性検査

検査結果を得るのに数日を要する

### ● 感染症の早期確定診断と早期治療

検査実施日のうちに検査結果を提供

(2018年より迅速微生物核酸同定・検査加算  
点数適用)

### 遺伝子POCT検査

- ・簡単な操作性
- ・コンパクトで低コストな装置
- ・院内検査が可能
- ・診療の場で結果出力  
(早期治療と的確な投薬)



### ● 薬剤耐性菌の早期鑑別

抗菌薬の不適切な使用の防止

(2015年国際的な国家行動計画として  
薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランが提言)

## ▶ 遺伝子検査のPOCT化による遺伝子検査マーケットの拡大

### ● 感染症診断における遺伝子POCT検査の実用化と普及

- 簡易で低コストな機器試薬システムによる感染症の原因菌やウイルスを早期に検出
  - ⇒ 初期感染の見逃し防止、  
院内・家族内感染の防止、  
早期治療（一般病院検査室，開業医での検査実施）
- 各種抗菌剤に対し耐性化した遺伝子変異部を増幅して特異的に検出
  - ⇒ 的確な投薬の選択（重篤化の低減と死亡率の低下）

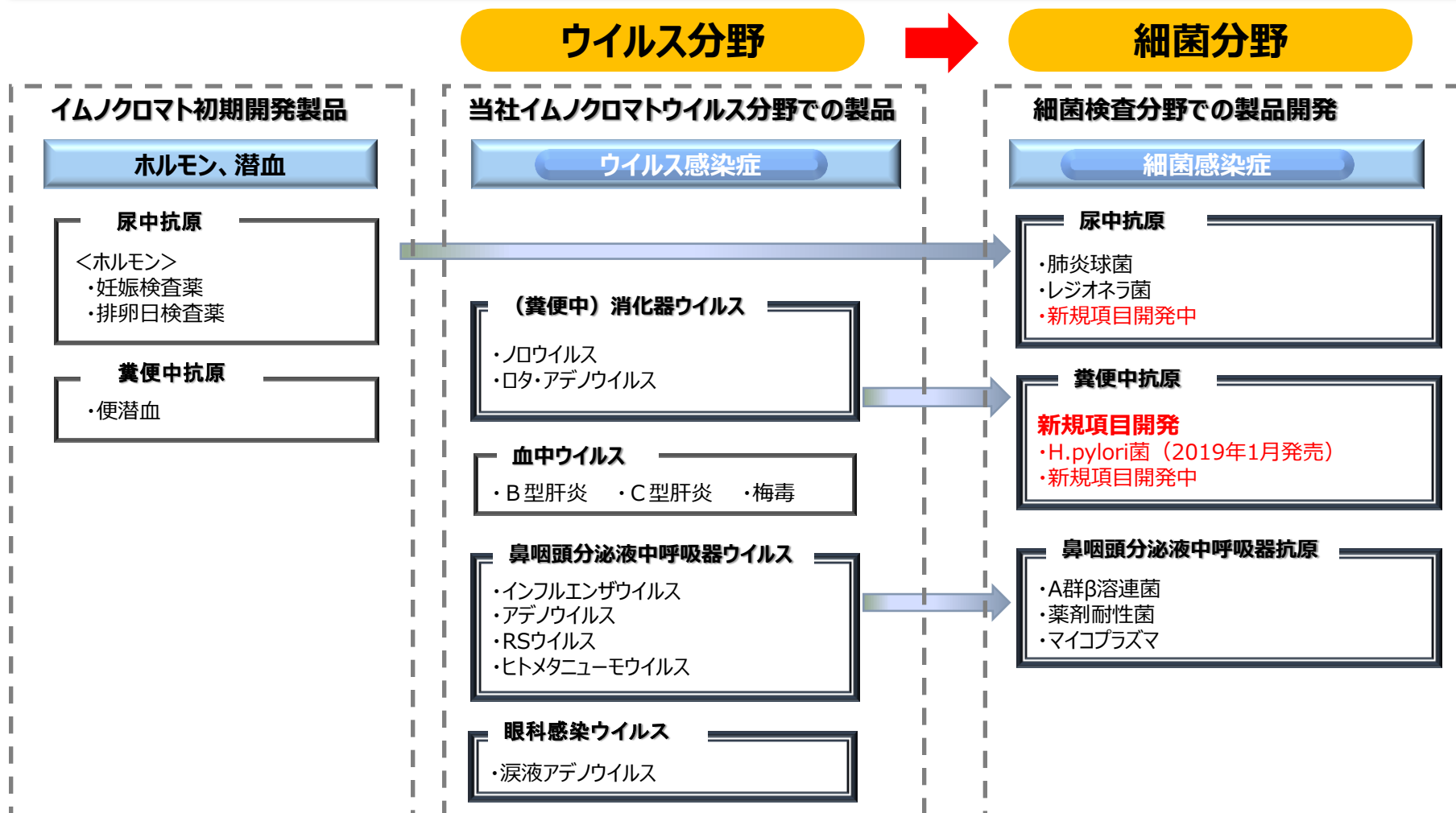
### ● 遺伝子POCT検査マーケットの拡大

- 新たな遺伝子POCT検査項目の開発と製品化（夏場および通年流行の感染症）

#### <開発項目分野>

- 呼吸器感染症項目（ウイルス，細菌）
- 消化器感染症項目（ウイルス，食中毒菌）
- 泌尿器感染症、婦人科感染症項目（細菌）
- 薬剤耐性菌項目

## クイックチェイサーシリーズの拡大



## 技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新 [ウイルス・細菌に特化]

病院・開業医分野

OTC・その他分野

### 確定診断技術

遺伝子POCT検査による  
確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・泌尿器感染症、婦人科感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



- ・感染初期の確定診断  
需要を拡大

◎環境・食品検査分野  
への応用開発

- ・遺伝子POCT技術を応  
用した環境・食品微生物  
検査への展開

### スクリーニング検査技術

クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良

◎感染症マルチ検査システムの開発（免疫、遺伝子）  
・正確性・迅速性への更なるシーズ開発



- ・ウイルス分野から  
細菌分野への市場  
創出

スイッチOTCマーケット  
での業績拡大

- ・スイッチOTC製品の  
先発販売
- ・武田コンシューマーヘル  
スケアとの販売提携

安定的収益と企業成長

自社開発・製造販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略

# Ⅲ（参考）事業概要

## 「病院・開業医分野」と「OTC・その他分野」



病院・開業医分野



免疫血清  
POCT

遺伝子  
POCT



全自動遺伝子解析装置  
『Smart Gene®』  
マイコプラズマ核酸キット  
『スマートジーン® Myco』  
2018年10月発売開始

OTC・その他分野



OTC

農業



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査





## ① POCT迅速診断キット（目視判定）

### クイック チェイサー シリーズ

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

#### 呼吸器感染症検査薬

##### インフルエンザウイルス



##### アデノウイルス



##### RSウイルス



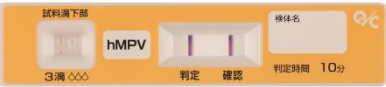
##### StrepA(A群β溶連菌)



##### RSV/hMPV



##### hMPV



##### マイコプラズマ



##### 肺炎球菌/レジオネラ



#### 消化器感染症検査薬

##### ノロウイルス



##### ロタ/アデノ



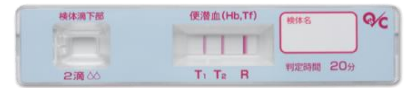
【新製品】

##### H.ピロリ



#### 尿糞便検査薬

##### 便潜血



## ② POCT機器試薬システム（機器判定）



### ➤ 高感度感染症迅速診断システム

- ◎ 当社メンブレン技術と富士フイルム株式会社の機器製造ノウハウを融合して実現
- ◎ インフルエンザウイルス、マイコプラズマ、RSV/Adeno の高感度製品3項目、アデノウイルス、Strep A(A群β溶連菌)の計5項目をラインナップ
- ◎ 2018年2月、さらに実用性を向上させた後継機『Immuno Reader II』を発売

デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader II



#### 【製品の特長】

- ◆ 早期診断が可能  
(発症初期の診断精度向上)
- ◆ 装置による結果判定  
(判定結果はモニター表示  
とプリントアウト)

#### 【IIの実用性向上ポイント】

- ◆ コンパクト化（省スペース）
- ◆ タッチパネルの採用  
(操作性・視認性向上)
- ◆ バーコードリーダー搭載  
(検体ID情報等読取可)

#### 【専用試薬】

#### クイックチェイサー® Autoシリーズ

Flu A,B



Myco



RSV/Adeno



Adeno



Strep A



## ③ 遺伝子POCT機器試薬システム



### ▶ 全自動遺伝子解析装置

## 微生物/遺伝子検査(PCR)が身近に

### 全自動遺伝子解析装置 Smart Gene



#### 【機器の特長】

- ◆ 迅速判定が可能
- ◆ 1ステップ自動判定。試薬ロスができません
- ◆ 核酸分子の配列情報を解析できます
- ◆ コンパクト設計の卓上タイプ
- ◆ タッチパネルでスムーズな操作

### 【専用試薬】 マイコプラズマ核酸キット

## スマートジーン® Myco



#### 【試薬の特長】

- ◆ マイコプラズマ核酸検出が試料滴下からわずか約30～50分の迅速判定
- ◆ 煩雑な前処理不要で、院内検査が可能
- ◆ マイコプラズマ 23S rRNAの変異株も含め全てが検出可能

### ➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

#### 【妊娠検査薬】



#### 【排卵日検査薬】



※妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ

◎ 武田コンシューマーヘルスケア(株)販売のハイテスターシリーズ

#### 【妊娠検査薬】



#### 【排卵日検査薬】



## IRに関するお問い合わせ先

**株式会社ミズホメディー 総務部**

**電話：0942-85-0303**

**お問い合わせフォーム：[https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir\\_contact](https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir_contact)**

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。